

受講生（アルムナイ）の感想・推薦文

(ページ)

- I. 第1期 : Mr. 宮本・① & Mr. 伊東・②-----2.
- II. 第2期 : Mr. 三好・③ & Ms. 西田・④-----5.
- III. 第3期 : Mr. 津田・⑤ Mr. 三宅・⑥-----7.
- IV. 第4期 : Mr. 飯田・⑦ & Mr. 近田・⑧-----10.
- V. 第5期 : Mr. 藤塚・⑨ & Mr. 木村・⑩-----13.
- VI. 第6期 : Mr. 髭・⑪ & Ms. 辻井・⑫-----16.
- VII. 第7期 : Mr. 大門・⑬ & Ms. 大岡・⑭-----19.
- VIII. 第8期 : Ms. 田中・⑮ & Mr. 山本・⑯-----22.
- IX. 第9期 : Mr. 池田・⑰ & Mr. 藤田・⑱-----25.

*ホームページ上でクリックによりアクセス

推薦文① Mr. 宮本 雅史 (1977年・工学部・修卒, 元H-P社)

MBAに興味を持たれている諸氏へ

2015年7月5日

宮本雅史

ミニMBA塾受講の推薦

皆さんこんにちは！

自分の価値を高めたいと思っている方に薦めます。

米国ではMBA取得者は年間9万人、日本では年間3500人であると、今年1月10日に開催された「MBAチャレンジ」サポートの公演で聞いた。アメリカではMBAを取得することが企業でのシニアマネージャー職を得る条件になっていると思われる。アメリカを追従する日本でも、将来同じ状況になると思われる。

本コースは講師の大住先生の紹介では、30歳代の中堅の方にMBAの本質を理解頂く場を提供する事と記載されていました。59歳の私が参加したのは、中堅の方と共に学び意見を聴くことが目的でした。第一回の修了者は、30歳代4名と50歳代3名の7名でした。また全員が全く異なる職場職種でした。今回の参加者の顔ぶれがどのようになるか楽しみです。

講義の進め方は、事前に配布されるアーキテクチャーに記載されたスケジュールで実施されます。事前にテキストを読んでおく事が必要です。大住先生の説明が始まると質問・意見が飛び出します。テキストに沿った講義はいつも時間が足りませんでした。月1回のメイン講義と補講があり、月2回の参加が可能でした。

私の印象に残っている事を4点あげます。

1. 自然科学と社会科学とは、科学の意味において同じである。
(理論に基づいて実証確認をし、本質を確認する。)
2. 組織運営においては、Integrityが重要である。
3. 人口と経済指数との関係
4. 受講生が講義を通じて発見する問題と目標設定(月1回の受講生のレポート)

受講する事で、MBA関連の情報にアクセスする方法を学びました。

MBAに関するイベントが開催されている事をしり、ミニMBA塾卒業後もMBA関連のイベントに積極的に参加しています。

第4回ミニMBA塾に参加される皆様と会える時を楽しみにしています。

以上

私の履歴

1971年 私立滝川高等学校卒

1975年 神戸大学工学部計測工学科卒

1977年 神戸大学工学部計測工学科修士卒

1977年 横河ヒューレット・パッカー入社 (営業関連部門)

2013年 日本ヒューレット・パッカー退社 (36年間営業関連部門にて勤務)

2014年 株式会社購買 Design 入社

推薦文② **Mr. 伊東 大輔** (1998年・東京大学法学部卒, アド・ダイス代表)

ビジネスって何だっけ？悩んでいるビジネスマンに自信を持ってお勧めします。

世界広しといえどもビールを飲みながら授業が進むのは東京六甲クラブのミニ MBA 塾だけではないでしょうか。

自由な授業進行の象徴とも言える食事とお酒を飲みながら活発な議論が飛び交う不思議な時間が驚くほどの豊かさをもたらしてくれました。

私は他大学出身の賛助会員なので本来は入塾資格を充たしておらず頼み込んで受講させて頂いたのですが、無理にでも通って大正解でした。

ビジネスに対して系統立ったアプローチをしたいという欲求を抱いたときに、では何をどうすれば良いのかが分からず無手勝流のガンバリズムだけで凌いでいたときにたまたま知ったのが本講座でした。

巷に氾濫するアンチョコビジネス本を千冊読むよりも本講座で大住先生のご指導のもと珠玉のビジネス書を紐解くほうが圧倒的に有益です。

月に1回のペースですから多忙を言い訳にすることなく継続できる丁度良い周期でした。

また、仕事の都合でどうしても出席できない場合でも補講が組まれるので授業に追いついていくことが出来ます。

メディア等で流布している一般受けしがちな見解をしりぞけ、世界のどこにいても通用するビジネススキルを伝授して頂けます。

そして、月に一科目ごと MBA の当該科目のエッセンスを簡潔に網羅した大住先生の講義ノートがたまっていき、講義が全て終わる時には貴重なテキストが手に入ります。

一家言ある現役ビジネスマン同志が学んだ内容をもとに議論を戦わせることでテキストの中身が生き活きと動き出し、MBA の思考枠組みを自家薬籠中のものにすることができました。的に、分かっていたつもりのマーケティングが弱点であったことを知ることが出来ました。

先生と受講生仲間に相談しながら作戦を立て直し、一皮むけることが出来ました。

単なる知識では無い活学を身につけられる機会が大住先生のご好意によりとんでもなく安価に開かれています。

ビジネスの原理原則を身につけたい人に自信を持って本講座をお勧め致します。

伊東大輔

推薦文一③ Mr. 三好 太郎 (1991年・経済学部卒, 三菱ガス化学)

第2期・ミニMBA塾を受講した三好と申します。私は91年経済学部卒ですので、募集要項にある理工系ではないのですが、東京六甲クラブのメールマガジンかホームページを見て関心を持ち、「文系ですけどいいですか？」と問い合わせ、受講許可を頂いた者です。

月に1回、補講もありますので、だいたい出席できましたが、出張や会議等で出席できない月もありました。それでも、一年間、大住先生と塾の仲間と楽しく学ぶことができました。大住先生はプロフィールにあります通り、サラリーマン生活を長くやられた方です。若い頃にバークレーでしっかり理論を身につけて来られ、それを活かした仕事を残して来られた方です。私は、そういう方の話を聴きたかったのでこの塾に参加しました。

私たちの普段の仕事の中で、理論と現実がマッチしないことは、実際にあると思います。その時、マッチしないことについて「しょうがないな」と妥協し、思考を停止してしまうだけなのか、「本来はこうあるべきだ」と自分で理論を元に現象を整理して、いつかはその矛盾を解消すべく、力をつけていこうとするのかで、同じ仕事を続けるにしても違って行くのではないかと思います。

大住先生もサラリーマン生活の中で、そういう矛盾をたくさん経験されてきたと思います。私は、そういう人生の先輩から理論とナマの話を学びたいと思い、塾の扉を叩きました。

MBAの理論は会社をとりまく様々な現象を腑分けするツールだと思います。

ツールをうまく使いこなした実例を知りたいと思っていました。

期待以上に先生からは多くのご示唆を頂き、また塾の仲間の煩悶を知ることもでき、有意義な一年を過ごすことができました。

実は今、転勤でニューヨークにおります。日系企業ですので、会社の仕組みはニューヨークにあるとは言え、日系企業の仕組みで動いています。ロジカルに物事が決まることよりも、空気が支配する日系企業であることに変わりはありません。そんな中での「おや、おかしいぞ」を感じながら、先生から頂いたテキストの英語版を、朝、入社時に少しずつ読みながら学びを継続しています。

とっぴりと会社に浸かっている方に、違う視座を与えてくれるミニMBA塾をお薦め致します。

私は、社内で人事担当として10数年のキャリアを積み、経験年数が一番長くなる中、自分の経験をベースとした判断軸だけでは限界が来るのでは?と漠然と考えていたところに、第2回ミニMBA講座の案内を目にしました。

文系出身なので、受講資格に該当していないのでは、という不安を感じつつも、月1回の講義で経営を体系的に(しかも格安で)学べることに魅力を感じ、受講を希望しました。

私自身が受講して良かったと感じていることを三点お伝えします。

<体系的にベーシックな理論が学べること、また、今後の学びの糸口も学べること>

毎講義のテーマ毎に、必要なエッセンスが凝縮されたテキストを頂けるので、1年間を通して受講することで、全体像をつかむことができました。一度の講義で詳細に理解することは難しくても、何がわからないなのか(必要なのか)がわかりましたし、テーマ毎にリーディングアサインメントに加えて、大住先生の目で精査された参考文献を紹介して頂けるので、どこに情報を取りに行けば良いのかがわかりました。

<様々な視点・知見を得られること>

MBAを学ばれ、海外・国内のビジネスの場で実践してこられた大住先生のご経験はもちろん、学生時代の専攻やビジネスキャリア、業種・職種が異なる分野で活躍されている塾生のみなさん、時には1期生の方ともご一緒させて頂くことで、それぞれ異なる環境で実際に経験されたこと、今まさに仕事の中で起きている課題や悩みを共有したりと、日常の仕事の延長線上では得られない視点、知見を得ることができました。

<学ぶ習慣(サイクル)ができること>

ミニMBA塾の講義は、講義前にリーディングアサインメントと事前に配布される講義テキストを学習する→講義の場で大住先生をはじめ、メンバーの実践・経験の話で肉付けする→テーマに沿ったレポートを作成してメンバーと共有する、というサイクルで進みます。

当初は慣れないこともあってペースを掴むことに苦労しましたが、1カ月に1回という講義のペースが丁度良く(どうしても都合がつかない時は補講もして頂けます)、レポートをメンバーと共有する、という緊張感もあって、事前・事後学習を習慣化することができました。

ミニMBA塾での学びが実践の場に活かしている実感はまだまだですが、思考や判断の一つの拠り所として、今後確実に役立つ実感を持っています。

興味はあるけれど…と悩まれていらっしゃる方には、ぜひ受講されることをお勧めします。第3期生のみなさんとご一緒できる機会を、楽しみにしています。

推薦文⑤ Mr. 津田 英信 (1988年・農学部卒, コスモスイニシア社)

ミニ MBA 塾受講の推薦—前例なき時代を生き抜くみなさんへ

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時(2027年)に今は存在していない職業に就くだろう」

この米デューク大学/キャシー・デビットソン氏のニューヨークタイムズのインタビュー記事は衝撃的だ。だが冷静に考えれば日本においても十分にリアリティのあるシナリオである。2027年と言えはわずか12年後。現時点で50歳を超えている方々は今までの経験の延長で定年まで全うできるだろう。しかし今40代以下の方々にとっては、これからのビジネスマンに求められる要素が今までと抜本的に異なる時代が来るということを強く自覚しておいた方がよい。

これまでの学校教育及び受験界の問いには基本的に「正解」があって、その「正解」にいかにか短時間で正確にたどり着けるか、が優秀さの尺度であった。会社務めにおいても入社10年目くらいまでの仕事というのは、恐らく社内に模範解答(事例)があって、その模範解答に効率よくクオリティ高く仕上げられる人間が優秀と評価される。

しかし、これからの時代に模範解答はない。自分で情報を集め、自分のアタマで深く思考し、未来を予測し、リスクを想定しながら、進むべき道を意思決定し、実行する。これを短期間で繰り返すのだ。そういう力はただ単に会社と家を往復しているだけでは決して身につかない。多くの会社員は機能別組織の一機能を担当しているからだ。もし、あなたが将来ビジネスにおいてリーダーシップを発揮されたいとお考えなら、ワーク以外の時間を使って幅広い知見を得る為の努力をするしかない。

人間の脳は、全く知らない情報にはあまり反応しないそうである。例えば日経新聞を全ページ開いてみて、自分の脳が反応するニュースは一体いくつあるだろう。それが今のあなたの現実だ。

大変僭越ながらミニ MBA 塾の私にとっての価値を述べてみたい。

- ①テキスト&授業で強制的に経営全般についての知識の裾野を広げ、
 - ②広がった関心領域に関連する記事を自身のセンサーでキャッチし、
 - ③そのニュースからの学びと自社の置かれた状況との関連性を無理繰りでもレポートにして論じ、
 - ④他者の意見から一つの事象に対する色々なモノの見方を知る。
- これを繰り返すことで、経営的な脳の使い方のトレーニングができることだ。それから大住先生の生の海外からの視点を数多く聞いたことも私にとっては貴重だった。

これからの前例なき時代を生き抜く皆さん、このミニMBAを足掛かりに更に高く広い世界を目指して躍進していかれることを期待しています。

迷ったら Go !

推薦文⑥ **Mr. 三宅 史朗** (2003年・工学部機械工学科卒, 富士ゼロックス)

私は、機械工学科出身ということもあり、入社して10年あまり、商品開発の業務に携わってきておりましたが、最近は工学だけでなく、ビジネスという観点で業務上、知識を要す（実際は悩む）場面が増えておりました。そんな中、ビジネスの基本を学びたいと思っていたところ、運用良くこのミニMBA講座を知りました。

それまで何度かMBA関連のビジネス本にトライしては挫折しており、また（ゴルフ等でも）独学・我流の限界も痛感しておりましたので、この時とばかり申し込みをした次第です。

実際、大住先生のテキストと豊富なビジネス経験をもとにした講義によって、MBA全科目を体系的にそして各科目のエッセンスを効率よく学習することができました（やはり独学ではポイントを掴むのが困難）。

最初は慣れないところもあり、事前学習や講義後のレポート作成に時間がかかったりしましたが、半年を過ぎた頃から、苦にならなくなり、また、学習した科目の内容が繋がってきて、自身の業務と関連させて考える機会が増えました。

その場合、講義で紹介された本を読んで更に理解を深めようとしたり、業務をそれにあわせて顧みたり、正のスパイラルみたいなことが何度か訪れたことがありました。そのときは学ぶこともそうですし、仕事も楽しく取り組みました。月に1回のペースで約1年間。社会人として過度な負担なく受講、一方で事前学習と講義後のレポートが義務付けられていることから、働きながら学ぶという観点で、最適な講義と思います。理論・原理・原則を知らなくても日々の業務は出来るかと思いますが、それを知ることによってより世界が広がり、視座を高めることに繋がるかと思います。

ミニMBA、興味ある方は是非受講されることをお勧めします。

三宅史朗(03年 工学部機械工学科卒)

推薦文⑦ Mr. 近田 伊織 (2011年・経営学部卒, JFE 商事株式会社)

MBAに興味を持たれている皆様へ

2016年10月10日

近田伊織

ミニ MBA 塾受講の推薦状

神戸大学六甲クラブ・ミニ MBA 塾では、経済学・経営学全般について学ぶ事が出来ます。この事を可能にしているのは、講師の大住先生が川崎製鉄（現在は JFE スチール）からアメリカのビジネススクールに会社派遣された事が大きな要因だと当方は考えています。ミニ MBA のテキストは相当深くまで作り込まれており、経済学、マーケティング、経営戦略、ファイナンス、会計、製品開発、生産管理等のビジネスでは欠かせない科目で構成されています。講義は月 1 回のメイン講義と補講で進み、1 年間を通した 12 回の講義で幅広く経営学全般を学べる仕組みになっています。講義の質はとても高く、当方は 1 年間を通して一度も講義を休む事はありませんでした。最初に年間の授業料を支払う為、最後まで粘り強く学ぶ姿勢が重要かと思います。そうは言ってもやるべき事は、講義の予習、講義への参加、そして講義レポートの作成だけであり、働きながらでも充分に対応出来ます。しかし、これら最低限の約束事も守れない人も多くいました。ミニ MBA の講義は自分の業務に効果的な見返りがある内容ばかりですので、皆様にはこの一年間はミニ MBA での勉学には是非とも集中して頂きたいと思います。当方は大学時代に、ミクロ経済学と経営戦略を学びました。その後 JFE 商事に入社し、鉄鋼原料のトレーディングに 1.5 年間、その後鉄鋼原料の事業投資に 4 年間携わっています。まさに会計学、ファイナンス、生産管理等のミニ MBA の講義内容が自分の業務に直結致しました。しかし、これは当方だけに当てはまる訳ではなく、皆様が現在どのような業務に携わられていると、企業で働かれている限りにおいては、ミニ MBA の講義は皆様にとって有益な内容だと思います。

第 4 期は 20 名以上のメンバーで構成され、年齢層は 20 歳代～50 歳代と幅広く、またメンバーの所属業界も製造業、金融、商社、ベンチャーと多岐にわたり、講義内外で議論が活発に行われました。企業で働いていると、どうしても同じ企業の人と関わる事が多く、狭い考え方になってしまいます。よって、このミニ MBA を通して、別の業界・企業・年代の方々と切磋琢磨する事は、皆様にとって非常に良い経験になります。所属企業の守秘義務上、案件の具体名までは話せませんが、当方は自分が経験した事例を可能な限り紹介してクラスに貢献しました。そうすると、他のメンバーも自分の会社の事例を紹介されて、講義は非常に活発に進みました。講師である大住先生は川崎製鉄の財務部門でご活躍され、また海外駐在の経験も豊富にあります。従いまして、皆様に経営学を学ぶ強い意志があれば、先生やクラスメートから非常に多くの事を学ぶ事が出来る一年間になるでしょう。第 5 期ミニ MBA 塾に参加される皆様と会える時が楽しみです。

私の連絡先 : kondaiori750@gmail.com (何か質問点が御座いましたら、連絡して下さい)

私の履歴書

2006 年 大阪府立北野高等学校卒

2011 年 神戸大学経営学部卒

2011 年 JFE 商事株式会社入社

原料部隊でトレーディングに 1.5 年間、事業投資に 4 年間従事しています。

以上

ミニ MBA 塾 推薦のことば

まず、この推薦文を読まれている方には、ミニ MBA 塾が開講される事は知ったものの、実際に受講しようかどうか迷われている方もおられるのかと想像しますが、迷わず受講されることをお勧めします。

私がこのクラスを受講しようと思ったのは、その必要性和好奇心からでした。法学部を卒業後会社に入って以来 30 年超、ほぼ法務関係の仕事をして来た為、やはり知識と経験が偏ってしまったのではないかと、今後仕事をして行く上でもっと広い観点で物事を見られるようになっておかないとサラリーマンとしても個人としても面白くないなあと考えていたところ、ちょうど法務関係者の集いである六甲法友会のつながりでご案内をいただいたものに食いつき、基本的には若手の方が対象というところを、何とかお願いして学ばせていただきました。

今 1 年間を終え、この塾に参加させていただいて本当に良かったと感じています。日々の仕事や家の事、趣味の時間などやる事が山積みの中、毎回の講義の準備をして、当日受講し、その後レポートを書く作業は決して楽にできる事ではありませんが、回を重ねる毎に興味は深まり、最終回が終了してしまった今となっては少し寂しい気持ちです。

世の中には多々の情報が溢れており、MBA やビジネス関係の書籍もたくさんありますが、それを自分で取捨選択して必要な勉強をして知識を身につけて行ける人、また実際に海外留学して MBA を受講して来ることが出来る環境にある人は、この塾に参加する必要はありません。でも、まずは身近なところで、1 年間のコースに参加して MBA の知識に接してみたい、自分で勉強する出発点にしたいという人には大変有意義なクラスです。

もう 1 点、食事をしてビールを飲みながら勉強できる会はなかなかありません。(事前に酔いのない中でしっかり準備して来られることが前提ですが、) 講義当日は多少のアルコールも入れて気持ちに余裕を持たせた上、大住先生やクラスメートと楽しみながら自由な議論を出来る事は大変有意義です。

私自身、10 月で最終講義を終えてこれからが本当の勉強ではないかと感じています。いただいた資料や授業でのご紹介を指針として引き続き書籍に当たりつつ、より知識を深めて実務で本当に使えるものにして行きたいと考えています。

こんな気持ちにさせてもらえるミニ MBA 塾、是非お勧めします。1 年間何とかやり切って、自分を変えてみてください。(他に聞きたい事などありましたら、遠慮なくご連絡ください。)

飯田十三 (1985 年 法学部卒)

iidajuzo@yb3.so-net.ne.jp

ミニ MBA 講座に興味を持たれている皆様へ

皆さんは今、六甲クラブで毎年開催されているミニ MBA 講座を受けようか、検討しておられるのだらうと思います。この1年間で大きな気づきと学びを得た私としては「ぜひ受講して下さい」と申し上げたいと思います。

私がこの講座を受けようと思い立ったのは、会社役員として海外の会社の経営層と話し交渉する中で、急増している MBA を取得した若い経営者 (COO、GM 等) のロジック・考え方・物事の進め方に共通項が多いことに気づいたことがきっかけです。彼らと対等に議論し交渉において優位に立つには相手のロジックのベースを勉強しなおす必要があるな、と思い、自分なりに MBA 関連の本を読んだりはしていたのですが、表層的な部分にとどまらず通貫する哲学的・思想的なベースまで知る必要があるな、とも感じていました。

そんな中で多くのご経験をお持ちの大住先生の講義を一年間受けさせていただき、表層的な MBA マニュアル本には書かれていない哲学的・思想的バックグラウンド、ものの考え方などを含めた全体像を知ることができたことは本当に大きな収穫であり成果でありました。また他メンバーの方々のご意見をレクチャーレビューや講義の中での議論で知ることができたのも実も楽しかったです。

一方、私もまだまだビジネスで現役でありますので、出席するための時間のやりくりには、かなり苦労したことは率直に告白せねばなりません。兎にも角にも何とか調整できました。これは補講を含め一ヶ月に2回の受講チャンスを下さった大住先生の熱意とご厚情によるものと感謝の気持ちでいっぱいです。

社会人にとって本格的な学びの機会というのはそう多くはありません。

皆さんがこれからマネジャー、経営者としてグローバル・ビジネスフィールドで海外の会社と仕事をするを本気でお考えであれば、是非受講されることをお勧めしたいと思います。

(他に聞きたい事がありましたら、遠慮なくご連絡ください。Joji.fujitsuka@gmail.com)

私の履歴書

1977年 大阪府立千里高等学校卒

1981年 神戸大学理学部 地球科学科 卒

1981年 原田産業株式会社 (中堅貿易商社です) 入社 工作機械部門 営業配属

1994年 同社 造船部門 セールスマネージャー

2007年 同社 建築部門 ゼネラルマネージャー

2010年 同社 執行役員 (造船、建築、情報通信部門)

2013年 同社 取締役 東京支店長

私は、神戸大学法学部を卒業後、司法試験を受験し弁護士資格取得後、法律事務所で勤務した後、現在、企業の法務部でインハウスロイヤーとして勤務しております。

私が本講義を受講しようと思ったのは、私の専門分野である法務の関連分野として MBA 科目に以前から関心を持っていたこと、MBA 科目に関する知見を深めることは企業内で法務を担当するにあたって有用であろうと思っていたこと、また、MBA 科目を網羅的に取り扱う本講義の年間シラバスの内容に魅力を感じたことが理由です。

本講義を受講することを決めてから気が付いたことなのですが、私と大住先生とは偶然にも同郷でした (何と先生がかつて私の母校 (高校) のすぐ傍に住んでいらっしやったという偶然。)。大住先生と私の故郷は、兵庫県北部の松葉ガニ、但馬牛、城崎温泉などで知られている但馬 (たじま) という地方です。最近でこそ“日本のマチュピチュ”と呼ばれる竹田城が有名ですが、大住先生と私の故郷である但馬地方はいわゆる田舎、過疎地にして、東京で仕事などで同郷の方に会うことは滅多にありません。ましてや私が偶然関心を持った本講義の講師をされている大住先生が同郷であったことは大きな驚きであると同時に、何か強いご縁を個人的に感じてしまいました。

本講義では、大住先生が、広大に広がる MBA 科目のエッセンスを、月 1 回×13 回という密度の濃い講義で網羅的に教えてくださいます。本講義内容は、経済学、経営学、マーケティング、会計、ファイナンス…と多岐にわたります。しかし、本講義の特徴は、単に数多くの科目が取り上げられているだけではなく、実際にアメリカのビジネススクールで MBA を取得された大住先生から各科目の“エッセンス”を学ぶことができ、MBA 科目の全体像を体系的に理解することができるように思います。

唯一、受講生に課される課題は、毎月 1 回のレクチャーレビューの提出です。日々の仕事の傍ら毎月 1 回レクチャーレビューを提出するのは案外大変です。私も途中挫折しかけてましたが、遅れながらも何とか食らいつき、最終的に全講義分のレクチャーレビューを提出しました。皆さんも本講義の受講開始後、日々の業務に追われ、レクチャーレビューの提出が滞ると、段々と後ろめたくなり、本講義への足が遠のきそうになることがあるかもしれません。しかし、仮に少し遅れてしまっても (ただし、本来は毎回締切厳守が求められており、勿論遅れない方が良いのですが。) 何とか食らいついて毎回提出し、最後まで受講してほしいと思います。途中で受講を諦めてしまっは勿体ない内容の講義が待っています。

本講義のレジュメ内で取り上げられていた、LIXIL グループ創業者潮田健次郎氏の“入り口を突破させる事が教育というものだ”という言葉が印象に残っています。本講義は、大住先生が MBA 科目のエッセンスを網羅的に教えてくださる、まさに“MBA 科目の入り口”を突破させてくれる講義であったと思います。その講義内容に知的好奇心は刺激され、受講前は未知の世界であった MBA 科目の扉を開くことができました。

少しでも本講義に関心を持たれた方は是非本講義の門戸を叩いてください。きっと講義内容に知的好奇心は刺激され、皆さんの知見を広げることができるものと思います。皆さんが本講義を受講され、MBA 科目の扉を開かれますことを祈念しております。

(他に聞きたい事などありましたら、遠慮なくご連絡ください。

k.ryota1006@gmail.com)

2018年1月31日

みなさんこんにちは。

私がミニ MBA を受講しようと思ったキッカケは、私自身が人事の育成・採用の責任者を務める中で、漠然とながら将来は経営者になりたい、そのための準備をしたいと思っていたところに案内をいただいたことです。最初は求められる受講者年齢層と少しずれてるかなと思っていたのですが、若手から大ベテランの方まで参加されていて、学ぶ意欲に年齢など関係ないことをあらためて気づかされましたし、自分自身一步踏み出して良かったと心から思っています。

また、従事している仕事や経験値も関係ないです。自身の過去の経験の棚卸し、あるいは未来のチャンスをつかむための自己投資と考えられると良いと思います。

私がミニ MBA を受講して得た value は以下 3 点です。

①経験×知識が体系化された

大学の時に経済学部や経営学部の授業で理論を学んでも実践していないのでピンと来ていなかった部分もありますが、社会に出て MBA 科目を実践したからこそ、改めて理論を学ぶことで自分の経験×知識が体系化されたと感じています。リカレント教育としても非常に役立つものでした。

何となく組織や会社の慣習、当たり前になっているものが正しいと思いながら日々過ごしてしまいましたが、セオリーを学んだ上で状況に応じて柔軟な対応をしていくことが必要だと改めて感じました。

②自分ごとに置き換えることでよりリアルさが増す

1つ1つの講義を聴きながら自分の会社や仕事に置き換えたなら？と考える、会社のメンバーに学んだ内容を共有する（とてもよい復習になります）、など講義を聴くプラスαのアクションを起こすと学びが増幅されると思います。

③積極的に発言することで学びが増幅する

大住先生は理論と実践に裏打ちされた講義をされるだけでなく、日本社会に対する高い視座からの問題提起もされ、良質な議論を促していただけるので、自分が考えていることを臆せず発信していくことで、学んだことがさらに深まります。もし、これまで発信する機会が少なかったと感じる人は、練習と思って意見を出してみてください。きっと新しい気づきが得られます。（私の場合はこれからの採用の姿について、自社の経営層とディスカッションするような感覚で議論させていただきました）

社会人は準備をしている者にしかチャンスは訪れません。もし少しでも興味をお持ちであれば、一步踏み出して参加すること、そして参加する以上は継続して出席することをお勧めします。高い志を持った同志が一人でも増えることを願っています。

私の経歴

- 2000年 神戸大学経済学部卒
- 2000年 株式会社NTT データ入社、金融システムの開発に従事
- 2015年 人事本部に異動、人財開発担当、採用担当の責任者を歴任
- 2019年 金融分野全体のグローバル推進するポジションに異動

2019年6月30日記

(naohugol@gmail.com)

ミニ MBA・6期生としての推薦文という名の感想文にて、当講座の受講をお薦めさせていただきます。

①私がミニ MBA 受講に至るまで

学生時代は研究室で実験（と部活動）にマイペースに明け暮れる日々を過ごしていました。しかし社会人となり、会社・組織に属する中で、目の前の業務を追うだけではなく、自分が身を置く組織がより良くなるためには何が必要か、会社組織はどのような考え方をもとに動くものなのか、ということをもっとよく考えるようになりました。同じころ、本講座が開催されていることを知りました。経済学にも興味があったこと、また、多様な異なる環境にいる方々と組織に関する話ができる場があればと考えていたこともあり、受講を決めました。

②どんな形式だったか？

毎回予習したテキストを基に大住先生が解説し、適宜質疑やディスカッションを行う形式です。書き下ろしのテキストは非常に充実しており（每期更新）、また課題・推薦図書等を紹介戴きました。受講後はレポート作成＋オンラインでの意見交換、時にプレゼンテーションの場もあるなど、アウトプットの機会も多くありました。

③実際受講してみてどうだったか？

経済・経営学等の知識を体系的に学ぶだけではなく、複数の視点を持ちながら考えるトレーニングの機会でもありました。正直なところ、社会人3年目の経験不足は感じ、過去経験しなかった、或いは所属組織に該当しないと思われた内容については、自分の現実と結びつけることを難しく感じることがありました。しかし、理論や他社事例と、自分の知識、環境、経験とのギャップを把握すること、視点を変えながらギャップを埋めたり組み合わせたりすること、そして定期的なアウトプットにより、思考の幅が広がったと感じています。学んだ理論と身についた考え方は、今後に活かせると考えています。

クラスの雰囲気として、神戸大卒という共通項により、比較的安心感をもってゼミに臨めました。私自身、オンラインでは積極的ではなかったものの、意見交換をしやすかったように思います。異なる年代やバックグラウン

ドをもつ方々との、そして時に国内外で活躍中のOBの方々も参加してのディスカッションは（ビールも手伝って）垣根がなく、刺激の多いものでした。

積極的になるほどタフですが、好奇心をくすぐられ、得られる知識量や定着度合いなど、独学と比べたメリットはとて大きいと思います。（費用面は言わずもがな！）

実務経験豊富な方も、社会人経験が浅いからと迷われる方も、少しでも興味がありましたらぜひご参加を！単なる学びの場ではなく、関わり方次第で面白い化学反応（協業）が起こることにご期待ください。

2019年7月1日記

(paquita.9191esmeralda@gmail.com)

推薦文⑬ **Mr. 大門 史明** (1994年・経営学部卒、(株)日立製作所)

「ミニMBA塾」レストランによろこそ！！

本レストランはJR有楽町駅徒歩5分位の帝劇ビルの地下2階「神戸大学・東京六甲クラブ」内の好立地にあります。営業日は月1回限り、19時開店となっております。

本レストランではMBAコースをフルコースで味わうことができます。日頃のルーティンワークや在宅勤務でお疲れのアナタ様、会社帰りに月1回の素敵なディナーはいかがでしょう？

当レストランのメニューはフルコースのみのご用意となっておりますが、リーズナブルな料金体系となっております。

お料理の中身ですが、前菜（イントロダクション）、スープ（ビジネス経済学）に始まり、サラダ（経営学）、魚料理（マーケティングや製品開発）、肉料理（会計・ファイナンス理論）、デザート（生産管理）等々、盛り山です。しかも、ビール飲み放題付です。

当レストランのシェフは、川崎製鉄（現JFEスチール）に入社され、カリフォルニア大学バークレー校に留学され修行を積んだ真のMBAホルダーである大住先生です。会社ご退職後は青山学院大学大学院や立命館アジア太平洋大学（APU）等でも腕を振るった神戸大学が誇るマエストロです。シェフは和洋折衷の味付けでありながらも、スパイスを巧みに効かせた洗練された皿々（テキスト等）でお客（生徒）を決して飽きさせることはありません。また、繰り出される食材（リーディング・アサインメント）も豊富です。これまで味わったことのないフルコースを十分にご堪能下さい。

また、当レストランは老若男女を問わず、様々な業種の様々な年代の方をお迎えしております。時には当レストランの常連さん（卒業生）が顔を出しますのでお客様同士の交流を深めてみてはいかがでしょうか。

最後に卒業時には、あなたは色々なレシピ（MBA的知識や考え方）を身に付けていることに気付くでしょう。さあ、その数あるレシピの中から自分の得意料理（キャリア）を作ってみませんか？きっと、おいしく料理できることでしょう。

私ですか？もう満腹になって卒業後に消化（復習・自習）している最中です。

是非、「ミニMBA塾」のフルコースをお試しあれ。Bon appetite!!

(照会先：fumiaki.daimon.hy@hitachi.com)

受講に至った経緯

私は事情があって6期&7期の2期にまたがって受講した者です。メーカーに入社以降、セメント事業の管理部門(購買・経理・人事)に従事してきました。海外事業に携わりたいという思いから、2018年に社内公募で1年間海外MBA留学をすることを決めましたが、そもそも日本語でもMBAの内容を理解していなかったことに危機感を覚え、ミニMBAの受講を決めました。そして2019年に帰国後、受講を再開いたしました。

ミニMBAの良かった点

- ・どのようなバックグラウンドの人でも分け隔てなく学ぶことが出来る

生徒は入社歴が浅い若手社員(入社3年くらい経つと、実務に照らし合わせられるかもしれません)から、ベテランの方まで幅広いです。業種も様々ですので、自然と異業種交流の場となりました。途中から月1回の補講をなくす代わりに生徒やOB/OGが持ち回りでプレゼンを行うことになり、普段の業務では中々伺うことのできない内容を学ぶことができました。

- ・凝縮された、かつ理論にとどまらない授業を受けることが出来る

授業は原則月に1回×3時間ですが、経済学、組織行動学、マーケティング、製品開発、会計、ファイナンス等幅広い分野が網羅されております。理論の紹介にとどまらず、メーカーご出身・海外経験が豊富な先生のエピソードも交えながら説明されるので、自分自身の意見を持ちやすくなる授業構成だと思います。反対意見を述べることも許される環境です。授業を受け終わった後はいつも無知の知を認識し、「もっと勉強しよう!」という気持ちになります。

- ・ファイナンスが苦手でも、ちょっと面白いと思えるようになる

先生曰くファイナンスを苦手とする生徒が多いようで、私も実務経験がなかったため苦手意識を持っておりました。しかしながら、ファイナンスを得意分野とされる先生がまとめていただいた図やレクチャーは初心者でもわかりやすく(先生がわかりやすい書籍をアレンジして、さらに簡潔に示されています)、少しは親しみを覚えるようになりました。

7期はコロナ感染予防の観点から、zoomレクチャーが取り入れられることになりました。私は東京在住ですが、在宅勤務の観点から途中よりオンライン受講へ切り替えました。今後どう継続されるかはわかりませんが、もしかすると忙しくてオンタイムで授業を受けられない方や遠方で受講されたい方も受講できるチャンスなのかもしれません。もしオフラインで授業を受けられるのであれば、先生や他の生徒の方とビールを飲みながら双方向コミュニケーションの授業を楽しんでください。

繰り返しになりますが、年齢・バックグラウンドは不問です。少しでも興味を持たれた方は

ぜひ MBA を受講いただき、自分の業務を俯瞰されて新たな一步を踏み出して頂くことをお勧めします。

2020年11月21日

(rrinat4@gmail.com)

ミニ MBA 塾推薦文

こんにちは。まず、自己紹介と受講に至った経緯についてご紹介します。

私は、神戸大学大学院を卒業後食品メーカーに入社し、研究所にて日々研究開発に取り組んでいます。大学での研究と異なり、企業での研究はビジネス視点が必須です。中堅クラスになると、研究の出口戦略に関して様々な部門とのコミュニケーションを任せられ、実務での発揮が求められます。私は、学生時代から自然科学の分野を主に学んでおり、経済学・経営学の理論には疎く苦手意識すらありました。そのような状況下、東京六甲クラブを利用する中でミニ MBA 塾を知り、受講を決めました。

次に、ミニ MBA 塾を推薦するポイントを以下に4点お伝えします。

1. MBA のエッセンスを幅広く体系的に学ぶことができます。一度に全てを理解し習得することが困難だとしても、自分の盲点を把握することで自学自習に繋げることができます。
2. 大住先生の国内外での幅広いキャリア経験を基に、ビジネスの現場での体感を交えて話して頂けます。講義、レポートでの双方向コミュニケーションにより、自分自身のビジネスの現場に照らし合わせて理解を深めることができます。
3. 様々な業種、職種、年齢の人と知り合うことができます。各々の抱える課題感や視点が異なり、とても視野が広がり刺激をもらえます。
4. Advanced session にて受講生の経験談、本講で議論しきれなかったトピックなどを適宜取り上げ、ディスカッションを行います。学びの幅は無限大です。

最後に、大住先生がよく講義で「自学自習自省に勝る講義や勉強法は存在しない」と仰いました。経済学・経営学に苦手意識すらあった私ですが、見え方が変わり、自学自習自省をスタートすることができました。ミニ MBA は、自学自習自省をスタートする、または深める、絶好の機会だと思います。ぜひ飛び込んでみてください！

2022年3月26日 (hideyoyoshida@gmail.com)

ミニMBA推薦文

- ・最近仕事がマンネリ化してきたと感じている方
- ・「学生時代にもっと勉強しておけばよかった」と自責の念に駆られている方
- ・2022年を充実した一年にしたい方
- ・MBAに興味があるけれど、時間・コスト面の負担が気になって受験に踏み切れない方
- ・MBAホルダーだがもっと勉強したいという方
- ・しっかりとした経営理論、経済理論を身につけたい方
- ・特にファイナンス理論に興味がある方
- ・あれこれビジネス書に手を出しすぎて、結局何が重要なかわからなくなってしまった方
- ・そもそもどんな本を読めばよいかわからないという方
- ・海外MBAの様子を知りたい方
- ・海外勤務に興味がある方
- ・自身の海外勤務経験を他の人にシェアしたい方
- ・海外留学に興味がある方
- ・自身の海外留学経験を他の人にシェアしたい方
- ・転職を考えている、あるいは転職した方
- ・起業を考えている、あるいは起業した方
- ・事業承継を考えている、あるいは事業承継した方
- ・地方にしながら最先端のビジネス知識を身につけたい方
- ・久々に気兼ねなく関西弁をしゃべりまくりたい方
- ・兵庫県但馬地方にご縁のある方
- ・鉄鋼業に興味のある方
- ・鉄鋼業関係者の方
- ・お酒を飲みながら勉強したい方
- ・会社でも家でも言えない自分の意見を、思う存分表明する場を欲している方
- ・Y世代、Z世代と交流したいX世代の方
- ・X世代と交流したいY世代、Z世代の方
- ・神戸大学卒業生と交流したい神戸大学卒業生の方
- ・神戸大学卒業生と交流したい神戸大学以外の卒業生の方…

一つでも当てはまるのであれば、ぜひ受講をご検討ください。三つ以上当てはまる方、受講しない手はありません！

掬星会 (OB・OG会) でお待ちしております！

私の経歴

2005年 私立関西大学第一高等学校卒

2009年 神戸大学法学部卒（櫻村ゼミ（法社会学）、ベルカン3期生（キャリア支援企画室））

同年 株式会社クボタ入社。以来、国内外で一貫して人事労務の業務に従事。

2021年 株式会社クボタ退職

同年 妻の実家の家業を継承すべく、山陰クボタ水道用材株式会社に入社。本社のある島根県松江市に移住。周囲に後継者として認めていただけるよう、日々奮闘中。

2022年3月9日

連絡先：kosuke.yamamoto1016@gmail.com

以上

ミニ MBA 塾 推薦文

2014年に神戸大学経営学部を卒業した池田と申します。年齢は32歳の年で、この年齢になると本場のMBAを受講した人・しようとしている人が出てきます。将来を鑑みた際に、MBAまで行かなくとも経営学全般を学びたい…と思い始めたタイミングです。

ちょうどそんな時に神戸大学の後輩がインスタグラムのストーリーズにてミニMBAに参加したことを流して、見た瞬間にこれだ!と思い応募を決めました。実は、応募時期を締め切られていたにも関わらず大住先生にご無理を申し上げて参加をさせていただきました。参加して本当に良かったです。最高に濃い14か月でした。

本ページをご覧になっている方は参加をどうしようか悩んでいらっしゃるかもしれませんが、悩む時間があったと言えるほど良い経験になります。

ミニMBA塾の参加がおすすめである具体的な理由は以下の3点です。

- ① 1年間の凝縮した時間で無理なくMBA全般を学ぶことができる
 - (ア) 毎月2回*3時間の講義です。東京六甲クラブもしくは自宅でZoom講義を受けられる。録画も原則配布され復習も可能です。資料はカリフォルニア大学バークレー校 経営大学院を出られた大住先生が各回5~60ページにまとめたテキスト並びに関連テキストを頂ける。(これだけでも価値がある!)
- ② 学ぶだけでなく定期的なアウトプットの機会がある
 - (ア) 月末には学んだことを元にCERとしてレポートを提出。これが各回の良い復習となっていました。また、終盤にはAdvanced Sessionとして1時間程度発表の場もあります。(もちろんこうしたい!というお気持ちがあれば講義内容に反映もできます。)
- ③ 優秀な同僚に巡り合える
 - (ア) 通常一つの会社に勤めていると交流できる幅は良くて取引先です。本ミニMBA塾であれば様々な業界で働かれている方と巡り合えます。同期の仕事の話の聞けることも大きな刺激になります。

ミニMBA塾への参加は、あなたのキャリアにおいて重要なステップとなることは間違いありません。ご自身で書籍を購入して1年以上も勉強し続けることはなかなか不可能だと思います。本講義のモットーに“良い理論ほど実践的なものはない”を掲げておられますが、まさに良い理論を学び、活かし、そして仲間ができる経験ができるのがこのミニMBA塾であり、推薦いたします。

是非X期の皆様とご一緒できる機会を楽しみにしています。

何かご質問・ご不明点がございましたらお気軽にご連絡ください。

14年経営学部卒 池田祐太郎 yutarog.com@gmail.com

ミニ MBA 受講推薦文

この推薦文を読まれている方は、ミニ MBA 塾に興味を持ったものの、実際に受講しようかどうか迷われている方ではないかと思います。

迷われている理由としては、時間を確保できるだろうか、講義についていけるだろうか。1年2カ月に渡って続けられるだろうか、ZOOM参加でもリアルの参加者に溶け込めるだろうか、年齢が離れていても大丈夫だろうか、などがあるのだと思います。結論からすると、すべて問題なく大丈夫だと言えます。勿論、前提としてやる気があればですが。というのも、私自身が、関西在住(従ってZOOM参加)、経済学部卒ですが経営学はよく知らない、年齢は多くの受講者よりかなり上の65歳、未だにフルタイムの仕事なので、業務とのバッティングで毎回の参加は無理な状況でしたが、最後まで終えることができましたので。

この7月に1年2か月に渡ったミニ MBA 塾の受講を終えたところですが、改めてこのミニ MBA 塾に参加させていただいて本当に良かったと感じています。

神戸大学を始め MBA を取得できる大学院も少なくないですが、意欲があっても金銭面、時間面で誰もが選べる選択肢ではないと思います。その点ある程度の時間をかける必要がありますが、大住先生がバークレーの MBA 出身で、かつ川鉄での海外を含めた幅広い業務経験をお待ちなので、MBA のコア科目の知識を得ることは、このミニ MBA 塾で可能です。加えて、お一人ですべての科目(除く生産管理)を講義されるので、相互関連性を踏まえた体系だった説明に受けることができ、それがこのミニ MBA 塾の特徴でもあります。

コロナ禍を経て、リアル(東京六甲クラブ)と ZOOM とのハイブリッド形式でのミニ MBA 塾ですので、東京以外からの参加もできますし、東京であっても時間に間に合わないときには ZOOM からの参加に切り替えることもできます。講義については録画がされていますので、欠席した場合でも後で録画を見て学習することが可能で、フォローアップができる仕組みが来ています。(議論に参加できますのでオンタイムでの受講がベストですが)

もう1つの特徴としては、Advanced Session が講義の翌週に設けられ、講義にまつわるトピックスに加えて、MBA 塾卒業生による現在の仕事に関連したレクチャー、現ミニ MBA 塾メンバーによる発表とディスカッションがあり、幅広い知識や知見を得る機会を持つ仕組みがあることです。年齢を気にせず、様々な年齢、職種、バックグラウンドの違った受講生と”同期“になれることもこのミニ MBA 塾の良かった点だと思います。

毎回のテキスト(大住先生のオリジナル)は、書かれていることが盛りだくさんでかつ内容も濃いので、予習に追われていたのが実情ですので、最終講義を終えて、何とかやり切ったことの安堵感と共に、これからが本当の勉強ではないかと感じています。そのため講義資料はアーカイブされており、今後も必要に応じて見直しすることができます。

人生100年時代を迎え、リスクリングの必要性はいうまでもありません。昔に戻ってアカデミアの雰囲気浸って見ませんか。皆さんの知的好奇心はきっと刺激されるでしょう。

連絡先は takefuji2000@gmail.com です。

2023年8月17日記